

全米商工会議所、2021 年版「International IP Index」を公表

2021 年 3 月 24 日
JETRO NY 知的財産部
石原、赤澤

全米商工会議所グローバルイノベーション政策センター（GIPC）は 3 月 24 日、世界各国の知財システムの強さを分析した 2021 年版「International IP Index」報告書を公表した¹。米国の知財システム全体についてのランキングは、昨年同様 1 位となった（報告書 5 ページ参照）。日本の知財システム全体についてのランキングは、昨年同様順位を 1 つ上げて 5 位となった。

特許部門では、米国と日本は、昨年同様に韓国、スイスと並んで 2 位となった（報告書 9 ページ参照）。特許部門の 1 位は昨年同様にシンガポールとなった。

報告書では国ごとの分析がなされている。米国については、昨年同様に特許法第 101 条（特許適格性）に関する審査ガイダンス²が高く評価されているものの、依然として特許適格性に関する不確実性の問題が解消されていない点に懸念が示されている。また、オンライン模倣品問題に対処するための法的根拠の欠如等も、昨年同様に弱点として指摘されている（報告書 308～314 ページ参照）。日本については、2020 年に施行された改正意匠法や改正著作権法が評価されている。他方で、後発医薬品の製造販売承認に関して、先発医薬品企業（特許権者）と後発医薬品企業の間で特許の問題が解消される前に承認手続が進むケースがあることが従来と同様に弱点として指摘されている（報告書 180～184 ページ参照）。

さらに、報告書では、COVID-19 感染拡大の中で一部の国において知財を弱めようとする動きがあったにもかかわらず、分析した全 53 か国のうち 32 か国でスコアがプラスに改善されており、世界的に見ると知財システムは強化されていると指摘している。また、報告書では、米中経済・貿易協定や米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）などの貿易協定が各国の知財システムを実質的に改善し続けていることも指摘している。貿易協定を締結した国のスコアは、中国やメキシコをはじめとして全体的に大きく改善したとしている³。

（以上）

¹ https://www.valueingenuity.com/wp-content/uploads/2021/03/GIPC_IPIndex2021_FullReport.pdf

² https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Ipnews/us/2019/20190108.pdf

³ 知財システム全体のスコアは、中国は 2020 年の 50.96 点から 2021 年の 54.86 点に改善し、メキシコは 2020 年の 54.38 点から 2021 年の 58.25 点に改善した。